

早稲田大学審査学位論文

博士(人間科学)

概要書

摂食障害の治療中断に関連する要因の検討

The factors related to drop-out from treatment
in patients with eating disorders

2012 年 1 月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

小林 仁美

Kobayashi, Hitomi

研究指導教員： 野村 忍 教授

本論文は、摂食障害（Eating Disorders: ED）患者における治療中断の特徴を捉え、ED 患者にとってより望ましい治療行動の促進に寄与する心理的ターゲットを明らかにするために行われた研究をまとめた以下の 6 つの章によって構成される。

第 1 章では、ED 患者の治療行動をめぐるこれまでの研究動向について概観した。ED 患者において、近年慢性化・重症化傾向が指摘されているために早期治療の重要性がより強調されている。しかしながら、ED 患者においては治療中断が生じやすいことが指摘されているため、治療行動を促進するための介入が行われるようになってきている。ED 患者をめぐるこれらの現状についてまとめた第 1 章を踏まえ、第 2 章ではこれまでの研究における問題点として、①治療中断についての定義が研究者によって異なるために、ED 患者における治療中断の特徴を明らかにし、治療中断に関連する背景要因について検討する必要があること、②ED 患者の治療行動を検討する上でターゲットとなる認知についての基礎的知見が不足していること、③患者の視点に基づく治療行動の阻害要因について検討されていないため、治療行動の促進を目的とした介入の妥当性が検討されていないこと、の 3 点について指摘した。これらの問題点を踏まえ、①ED の治療中断の特徴を明らかにし、関連する背景要因を検討する、②ED 患者の治療行動に関連する認知の特徴を明らかにし、治療中断との関連性を検討する、③ED 患者が有する治療行動の阻害要因を明らかにすることにより、ED 患者のニーズに即した治療や支援の在り方を検討し、ED からの回復に寄与する心理的ターゲットを明らかにするための基礎的知見の提供を行うことを本研究の目的として提示した。

第 3 章では、ED 患者の治療中断の特徴を明らかにし、治療中断に関連する背景要因について検討を行った。第 1 節では、治療中断後に再び受診に至った再受診患者の特徴について検討を行った。再受診患者群では全例が AN-BP もしくは BN であり、過食行動を伴う病型であった。また、再受診患者では初診患者よりも年齢が高く、罹病期間が有意に長かった。さらに、無力感や抑うつ症状、精神的不健康に関する得点が高いことも明らかにされた。再受診患者におけるこれらの特徴から、治療中断による負の影響があった可能性について論じた。第 2 節では、ED 患者の治療中断がどのように生じているのか詳細に検討を行った上で本研究における治療中断についての定義を行い、治療中断の背景要因について、患者・治療提供者側の要因を含めた検討を行った。

初診から1年以内の治療継続日数を従属変数とした生存分析の結果、約1割の患者が1回の治療で治療中断しており、約4割の患者が1年以内に治療中断していた。また、治療中断の生じる時期によってそれぞれの患者群が異なる特徴を持つことを明らかにした。これらの結果に基づき、本研究では初診後180日以内に生じるより早期の患者の自己判断による中断を治療中断と定義し、治療のより早期に生じる治療中断について検討を行った。その結果、治療中断に関連する背景要因として、外来治療のみを受けていること、全体的な Quality of Life が高いこと、年齢が低いこと、発症年齢が低いこと、Body Mass Index が17.5以上であること、神経性大食症であること、状態不安が低いことが挙げられた。

第4章では、治療行動に関連する認知の特徴について明らかにし、治療中断との関連性について検討を行った。第1節では、治療行動に関連する認知として「治療に対する重要性」、「治療に対するセルフエフィカシー」に着目し、初診時にED患者が有するこれらの認知の特徴について検討を行った。第2節では治療行動に関連する認知と治療中断との関連性について検討を行った。その結果、ED患者の多くは初診時において治療行動を促進する認知を高く有していることが明らかにされ、治療行動に関連する認知と治療中断との関連性は認められなかった。

第5章ではEDの治療初期における治療行動の阻害要因を明らかにし、治療行動に関連する認知との関連性について検討を行った。治療行動の阻害要因についてED患者を対象とした半構造化面接により項目の抽出を行い、因子分析を行った。その結果、ED患者が有する治療行動の阻害要因として、「無力感」「回避的態度」「治療意欲の欠如」「世間体の悪さ」の4つの因子が抽出された。さらに「治療意欲の欠如」と治療行動に関連する認知との間に中程度の負の相関が認められた。

本研究では、ED患者において、治療中断が症状に負の影響を及ぼす可能性があること、治療中断の特徴について明らかにし、関連する背景要因を示した。初診時の治療行動に関連する認知と治療中断との明確な関連は認められなかったものの、治療行動の妨害要因の低減を図り、より望ましい治療環境の整備と症状からの回復に寄与する心理的ターゲットの明確化のために、今後より詳細な検討を行っていく必要がある。